

氏 名	松 井 健 まつ い たけし
学位の種類	理 学 博 士
学位記番号	論 理 博 第 677 号
学位授与の日付	昭 和 55 年 1 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	Ethno-science and Folk Taxonomy of the Shell in the Ryukyu Archipelago (琉球諸島における貝類のエスノ・サイエンスと民俗分類)

論文調査委員 (主 査) 教 授 池 田 次 郎 教 授 日 高 敏 隆 教 授 河 合 雅 雄

論 文 内 容 の 要 旨

近年、ヒトと自然との相互関係を解明しようとする生態人類学的な研究が、今日なお自然への依存度の高いポピュレーションを対象として盛んに行なわれているが、申請論文は、人間の自然の認知というそのもっとも基礎的な部分を解析しようと試みたものである。

申請者は南西諸島の9離島を選び、各島住民の海産貝類に関する知識と、独自の類別・命名の様式を明らかにした。申請者は、各島で自から採集した1,000点以上にのぼる貝について、それらを同定し(計256種)、この科学的分類にもとづきながら、その一つ一つをインフォーマントに提示して、それについての知識、実生活への利用、フォーク・ビリーフ等、さらに方名とその語源、分類の体系などについて聞き込んでいった。

南西諸島全域を通じて、貝類は一般に食用としての自家消費が中心となっており、経済的にはさほど重要な意義をもっていない。それにもかかわらず、各島民は生活環境の一部を構成する貝類に関して精細な知識をもっていることが明らかにされた。この分析の結果から、申請者は、このような自然の認知が、有用性や経済性だけでは説明しつくせないものであることをまず指摘している。

9離島のいずれにおいても、貝類の総称を得ることはできなかったが、島ごとに固有な様式で精緻な分類、命名がなされており、その様式にはいくつかのタイプを認めることができた。申請者は、これらの方名を語彙素に分解し、さらに民俗分類の特性を明らかにするために、いくつかの貝を一つのフォーク・カテゴリーにまとめる過程を分析している。たとえば、形態が少し異なっているだけで大きさの等しい二つの貝、もしくは形態はよく似ているが大きさの異なる二つの貝が一つの方名にまとめられる時の特徴的な手続きの存在が示されている。また、民俗分類の体系が完結するためには、島民の関心を引くことの少ない顕著な特徴をもっていない貝を一括するフォーク・カテゴリーが必要であることが指摘され、申請者は、弁別的な特徴にもとづいて定義される通常のカテゴリーとの対比で、弁別特徴が乏しいことによって“消極的に”定義される補足的なカテゴリーとしてこれを位置づけている。以上の作業を経て、南西諸島民が

貝類をどのようにして完全に類別するかを明らかにするために、その分類の手順をフロー・チャートを用いて図式化する方法が提案されている。

このような分析の結果、申請者は、南西諸島における民俗分類の類型が、ニューギニアから報告されている事例と論理的に共通しているが、新大陸の資料とは著しく異なる構造をもつことを確かめている。

論文審査の結果の要旨

申請論文は、申請者が南西諸島の9つの離島においておこなった生態人類学研究の一部をなすものであるが、ここでは自然の認知というそのもっとも基礎的な部分の解析が試みられている。申請者が、各島民の自然認知の機構を明らかにしようとして扱った自然の要素は、地形、植物、貝類、魚類と広汎に及ぶが、本論文では海産貝類についての資料が集大成され、それに分析が加えられている。

まず、民族科学およびフォーク・タキシノミーの研究にとって、貝類をその素材として選んだという着眼はきわめて独創的なものであったと言ってよい。貝は各島民にとってさして重要な意味をもつものではないが、海を生活の場とするこれらの人々には身近かな存在であり、形態、色彩ともに多様であり、これをインフォーマントに提示しながら聞き込みを進めてゆけるという利点がある。

論文の前半は、このようにして得られた情報の詳細な記載であるが、これによって各島民が彼らの生活環境の一部を構成する貝についてどれほどの豊かな知識をもっているかが明瞭に示されている。次に、人々が貝をいかに分類しているかということを分析するために、申請者は Berlin らがおこなった語彙素分析法を踏襲し、これによって他地域との比較に耐えうる、南西諸島における最初の民俗分類の資料を提示しているが、この点は高く評価することができる。他地域との比較の結果、南西諸島住民の分類に際しての論理的な手続きが、Berlin らによる新大陸の結果とは著しく異なったものであり、北米の類型のみによる一般化は危険であること、また琉球の類型はニューギニアの事例に近似することなどが指摘されているが、これは大きな貢献であると考えられる。この分析の過程において、申請者は、フォーク・カテゴリーの内部構造に理論的な解析を加えているが、この点はとくに注目し得る。すなわち、一つの社会の民俗分類の体系が一意的にきまるという性質を、視覚的にもよく理解しうる形で示している点であり、これはこの種の分析に有効な方法として今後もこの分野で利用されるであろう。

以上のように、申請者は南西諸島住民の自然認知の機構を分析することに成功しているが、これはヒトと自然との相互関係の解明を目指す生態人類学の研究に大きく貢献するものと考えられる。

よって本論文は、理学博士の学位論文として価値あるものと認める。